長いトンネルの先に光ある未来へ　～競泳委員会の闘い～

競技力向上部競泳委員長
末永俊則

福島県水泳連盟で行っている合宿は、歴史が長く自分が現役時代の時（35年くらい前）も参加させてもらっていた。時代によって合宿形態も変化を遂げてきたが、県水連の合宿が大きく変わってきたのは、平成7年に開催された福島国体前からだろう。

自分もコーチのかけ出しとして合宿に参加させてもらい、国体成功のため複数年にわたる長期間の合宿を行った。（本当に長い期間合宿した記憶がある）

そして現在のような年間を通して合宿を行うようになったのは、自分が強化の中心として合宿を行うようになった20年くらい前になる。

目標としている大会でベストを更新し全国大会で決勝進出するべく、長水路のプールを確保し、年間通して選手を管理しデータを蓄積して、選手にはトレーニング理論を教え込み、栄養管理にも注意し、試行錯誤しながら、この強化体制になった。



選手から監督へ
変わらぬ熱い想い！

そしてインハイ・全中・国体決勝や日本選手権決勝・オリンピック出場と全国で通用する選手を育成することが出来た。

しかし今年度の成績は、この長い歴史の中でも非常に厳しいものであった。

選手は一応に頑張っているが、なかなか結果が表に出ない、長いトンネルに入って抜け出せないような・・・

選手強化が難しい時代に入っているのも確かだと思う。選手の自主性を重んじるあまり、選手が苦手なトレーニングや極度にハードなトレーニングをやりたがらない、または手を抜くようなことも見受けられる。

その結果・・・

ベストが更新できず、その事を他の（練習以外）せいにしたり、練習が嫌になったりして悪循環に陥る・・・（その他の原因もあるが）

先日、東北ブロック合宿に行ってきた。東北ブロック合宿も歴史は長く、この合宿の出身者から日本代表選手も輩出している。しかし東北の現状も容易ではなく厳しい状況である。しかし参加している選手達はそんなことは感じさせないくらい、純粋に一生懸命に毎日の練習に取り組んでいた。練習内容も私からするとトレーニング理論など関係ない（無視した）トレーニングメニューもあったが、そんなことは関係なしに選手達は「キツイ!めっちゃキツイ!!」を連発しながら練習に取り組んでいた。

この合宿に参加して、福島県はちょっとキレイ（スマート）に練習やりすぎているかな・・・?と感じてしまいました。



萩ともさん　ありがとう!



やる気は自分の意志！

今の福島県に大事なのはトレーニング理論に則った練習や効率の追求のみとかではなく、選手が取り組める環境というか姿勢というか・・・。

「ロジック」より「マインド」が大事なのではないかな?と思ってきました。

ジュニア強化なんだし、もうちょっと雑（ザツ）でもいいかな・・・?!と思っています。（いい意味ですよ）

選手達のことを本気で考えて、どのような環境でも頑張れる強い選手を育成していきたい。選手とコーチの熱量を今まで以上にもっともっと上げていけるようにと考えています!

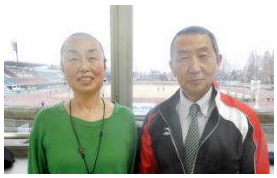
「長いトンネルでも抜ければ、明るいだろう!」ふくしまの『未来へ』向かって



筋トレも大事だよ

「河童倶楽部」によせて

さよなら河童倶楽部…皆さんに寄せ書き頂きました





仲間を大切に
県南oneチーム！

河童倶楽部を通して、関係の皆様方に感謝いたします。

「お陰様で、競技役員の皆様の協力により、福島県水泳連盟主催競技会の質の向上が図られ、ふくしまの子ども達が、全国大会の舞台でも躊躇することなく、平常心で試合に取り組めるよう、県内の競技会も全国大会と同様に運営できるようになってきました。ありがとうございます。」

何時も原稿の締め切りに間に合わず、平野さんには、迷惑をかけていました。それでも入稿すると必ず、「忙しいのにありがとうございました」と言ってくれます。この原稿も期限を過ぎての入稿になってしまいました。申し訳ありませんでした。そして、河童倶楽部の発行ありがとうございました。

田中　潔（県南）



古市先生ご夫妻
辛味噌パワー頂いています

古河童（こがっぱ）の雑談

水の力（ウォーターパワー）を取り入れた健康づくりにという年老いた方々の集まりに入り、教えられたことがなかなかできない・・かと思いきや、若い時にできなかった技がいとも簡単に・・『夢』でした。

頭が現実か、幻か区別のつかぬ昨今、無性に大会を見たくなり、でかけていきます。

テレビ観戦もありますが、やっぱり実戦。あの雰囲気は、年寄りには何よりの薬。受付で厄介払いされるどころか、笑顔で迎え入れて下さる心優しい役員さんをはじめ、大会運営に携わる皆さんにただただ感謝々々・・

古市貫一郎（県南）



会津 ・ならぬ事はなりませぬ
出来る事は全力で

福島県水泳連盟元理事長・大越啓次先生の福島県水泳連盟だよりが更紙による発行が始まりで、まるで学級通信のイメージでした。平野牧子さんへと引き継がれデジタル文化へと流れてきた時代でありました。

紙質は、光沢紙しかも印刷はカラーとなり県内各地区の情報が掲載され内容が栄養豊富で見る楽しみ読む楽しみでありました。

長い間本当にご苦労様では足りないくらいですけど歴史を感じます。ありがとうございました。

長崎敏秀（会津）

編集長は、ひらめきの女性です。頭の中には、水連の行事がしっかり入っていて、アイディアが、どんどん出てきます。それに伴い、取材依頼、原稿依頼が休む間もなく出てきます。

おかげさまで、水連の行事に沢山参加したかのような気分になれました。

初回から保存している紙面を眺めてみたら、

「あったね、こんなこと」

「懐かしいね」

楽しかったな。

ありがとう編集長。

広報委員　M

平野編集長さま

福島県のカッパ達の夢とあしあとがいっぱいの河童倶楽部。年３回の発行で 64 号。ありがとうございました。

河童倶楽部に加えて県水連の創立 60・70 周年記念誌の編集長でもありました。70 周年の時は時間が無く大変でしたね。編集長の頭の中のデータだけが頼りでした。天才だと思いました。関わる事ができて感謝です。

広報委員　K